

音楽を通して、子どもたちが成長し、
まちの雰囲気も変化してくる。
それがわたしの心の糧。



「まちのことを知ろうと安城まちづくり市民会議のメンバーとなり、音楽が安城の文化として根付くようにと、第1回目の安城市民音楽祭から企画・運営などに携わってきました」
今年で4回目を迎える安城市民音楽祭。11月7日(日)の本番に向けて、出演する同音楽祭合唱団や安城市少年少女合唱団の指導にも熱が入っています。今年で2年目を迎えた少年少女合唱団は、毎週土曜日午前中に練習を重ねています。
「幼稚園から小学6年生まで40人ほどがメンバー。歌を上手に歌うことも大事ですが、まずは、あいさつ、人の話をしっかり聞く、みんなと一緒に行動するとい



さ ち た み
佐地多美さん (南町)

音楽家として、また安城市民音楽祭合唱団や安城市少年少女合唱団の指導者として活躍中。まちの文化振興のために尽力されています。

った子ども同士のコミュニケーションを養うことが大切だと思っています。そして音楽を通して友達と感動をわかち合い、『やればできるんだ』『みんなとだったらなんでもできる』という達成感や一体感を子どもたちに味わってほしいと思っています」
日ごろは、大学で音楽教育の教べんをとる傍ら、声楽のリサイタルやチャリティコンサートを開催したり、各種の演奏会や海外親善公演などにソリスト（独唱）として招かれたりするなど、音楽家として幅広く活躍。そのうえ文化関係の公職や愛知芸術文化協会理事として文化行政に携わるなど多忙な日々が続きます。

「音楽家としては、よく食べよく眠ることに気をつけなければなりません。なかなか十分に寝てもらえないですね。リサイタルのため歌を暗記するんですが、時間もあまりありませんから、電車内でメモを片手に歌を口ずさんでいるんです。周りの人から変な人と思われるかもしれませんが（笑）」
「わたしにとつての心の糧は、少年少女合唱団など子どもたちが、いろいろな体験をし、感動し、喜んでくれること。子どもたちや周りの人が心豊かになり、そしてまちが少しずつ良くなっていく。そのお手伝いができればいいな、と思うことがいっぱいあります」



市民音楽祭に向けて練習中の安城市少年少女合唱団。四季折々の日本の懐かしい歌を披露します。

●安城市民音楽祭は、11月7日(日)午後3時から市民会館で開催されます。入場料は1000円（高校生以下500円）でチケットなどの問い合わせは、安城市民音楽祭実行委員会事務局（☎77-3882）まで。